

大谷學報

第三十六卷 第四號

昭和三十三年三月一日 發行

二種の否定……………世良壽男(一)

——慧の否定と悲の否定——

天台初期の禪法……………安藤俊雄(二五)

教育の過程……………前田博(三七)

中世武家々訓における儒佛受容の過程……………柏原祐泉(四三)

論註に於ける一心釋の意義……………永田敬信(五五)

新刊紹介……………(六六)

彙報……………(七五)

寄贈交換誌名……………(七七)

大谷學報第三十六卷總目錄……………(七八)

大 谷 大 學

大 谷 學 會

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHOLOGY AND CULTURAL SCIENCE)

CONTENTS

Articles :—

Two Kinds of Negation :

Prajñā Negation and Karuṇā Negation Kazuo Sera

Zen in Early Tendai..... Toshio Andō

The Educative Process..... Hiroshi Maeda

Confucianism and Buddhism in Medieval Japan

..... Yūsen Kashiwabara

“One Mind” as Interpreted by Donran..... Kyōshin Nagata

Book reviews

Reports

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
THE OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN.

THE ANNUAL REPORT OF
 RESEARCHES OF
 THE OTANI UNIVERSITY
 No. 9 (1956)

CONTENTS

Goethe's View of ArtYonejirō Ōba
 Eternity, Duration, and Time, in Spinoza.....Masaru Tachibana
 The Common Religious Demand of the Meditation Sutra
 (Kwanmuryōjukyō) : its Standpoint and Limit.....Ryūge Futamura
 Religion and the Ethical Ideal; Their Severance in
 the Feudal Society.....Yūsen Kashiwabara
 Studies in the Usages of Tibetan Verbs in Tibetan
 Buddhist Literatures (Appendix—The Table of
 the Conjugation of Buddhist Tibetan Verbs).....Shōju Inaba

大谷大學研究年報 第九集

ゲートの藝術觀……………大庭米治郎	スピノザに於ける永遠・持續・	及び時間……………立花 勝	觀經に於ける宗教的要求の意味と	限界……………二村 龍華	武家に於ける宗教と倫理の分化……………柏原 祐泉	—近世儒佛分離論への一視點—	佛典に用ひられたチベット語動詞	の用法の研究……………稻葉 正蔵	附録——活用動詞の活用表
-------------------	----------------	---------------	-----------------	--------------	--------------------------	----------------	-----------------	------------------	--------------

大谷學會會則

第一條 本會を大谷學會と稱し、事務所を大谷大學内に置く

第二條 本會は佛教學・哲學・史學・文學並びにこれに關連する諸般の研究及びその發表を目的とする

第三條 本會の會員は大谷大學教職員・學生及び本會の趣旨に賛同する者とする

第四條 本會は左の事業を行う

- 一、「大谷學報」(年四回)及び「大谷大學研究年報」を發行する
- 二、毎年春秋二回公開講演會を開く
- 三、隨時研究會を開催する
- 四、その他圖書の出版等必要な事業を行う

第五條 本會に左の役員を置く

- 一、會長 一名
- 二、理事 二名
- 三、委員 十名

第六條 役員の任務を左の通り定める

- 一、會長は本會を代表し、會務を統

理する

二、理事は會長を補佐する

三、委員は編集・庶務・會計の事務を分掌する

第七條 役員の選出及任期を左の通り定める

一、會長は大谷大學々長がこれに當る

二、理事は大谷大學々務部長並びに庶務部長がこれに當る

三、委員は大谷大學教授・助教授の互選により、その任期は二年とする

第八條 會員は「大谷學報」及び「大谷大學研究年報」の配布を受け、本會主

催の會合に出席する事が出来る

第九條 會員は會費として年額金五百圓を納めるものとする

第十條 本會則は大谷大學教授會の決議によらなければ變更する事が出来ない

附則 本會則は昭和二十七年四月一日

から實施する 以上

大谷學會役員

會長 山口 益

理事 野上俊靜 中島正賢

委員 稻葉秀賢 横越慧日 坂本 弘

杉平顯督 世良壽男 多屋頼俊

外村完二 名畑應順 藤島達朗

山田亮賢

補助委員 片桐昭雄

會計委員 吉田嘉一郎

囑託 吉田嘉一郎

昭和三十三年三月一日發行

編集兼 發行者 野 上 俊 靜

印刷者 西 村 七 兵 衛

京都市上京區小山上總町

大谷大學内

發行所 大 谷 學 會